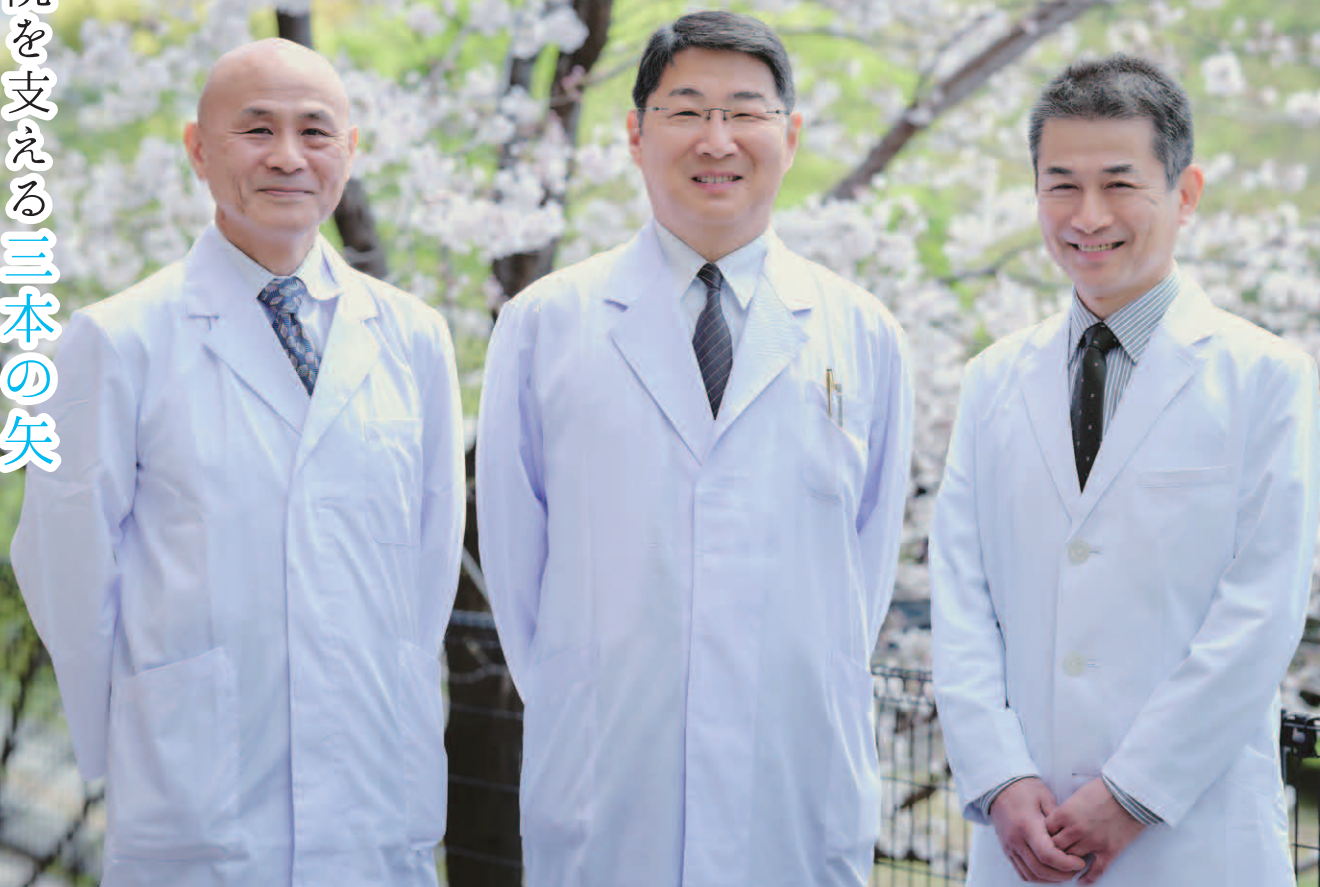


国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



病院を支える
三本の矢



【特集】

就任のご挨拶

- VOICE
- くまびょう TOPICS
- 医学シリーズ 腎臓内科
- 今何が研究されているか 看護部
- 研修のご案内
- 研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供 | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進 | 5. 国際医療協力の推進 |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営 |

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

就任のご挨拶

副院長

橋本 伸朗



このたび、平成31年4月1日付けで副院長を拝命いたしましたので、ご挨拶を申し上げます。これまで先任の大塚 忠弘副院長が尽力してこられた二本の柱、「救急医療体制支援」と「医療安全」を担当させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

救急医療体制支援としては、当院の救急医療のモットー「24時間、365日、救急をことわらない」を継続していくには、一にも二にもスタッフ数の充実が必要と考えています。数が増えればこそ仕事のon,offメリハリが付くというものです。疲弊してしまったら医療安全にも影響しかねません。

医療安全については、大塚先生・医療安全管理室堂園係長の御腐心により毎月100件を超えるインシデント・レポートが各部門から提出されるようになってきました。この体制を維持しつつ個々の事例を掘り下げて検討し、随時診療システム・マニュアルの見直しを計りたいと思います。過去二回の病院機能評価を経験したことで当院の診療システムはかなり充実しているところですが、レポートがきっかけとなり思わぬシステム不備が指摘されることがあります。特に倫理的問題は人によって認識に相違があることが浮き彫りになることもあります。救急の現場ではアクシデントにつながりかねません。スタッフ間の認識を共有していただくための講習会も重要と考えています。「医療安全」こそ、みなさまからご紹介いただいた大事な患者様にとりまして、わたくしたちにとりましてもかなめと考えております。医療安全にはゴールはありません。みなさまに頼られ愛される「医療安全」を目指したいと思っております。全力を尽くしてまいります。

副院長

日高 道弘



4月1日をもって副院長を拝命いたしました。長年当院に大きく貢献してこられた大塚忠弘先生、清川哲志先生の後任を引き継ぐこととなり、重責をひしひしと感じています。

皆様のおかげで当院は急性期病院としての診療機能向上をたゆまず続けています。この流れを受け継ぎ、さらに高度で質の高い医療を提供すべく努めて参ります。また当院の2つの柱の一つであるがん診療を、ますます充実させることも強力に推し進めたいと思います。これらを通じてより一層近隣の皆様や周囲の医療機関の皆様から信頼され頼っていただけるような熊本医療センターづくりに尽力いたします。当院は本年、看護師の特定行為研修を行う施設としての指定を受け本格的に研修が開始となります。これも裏方としてしっかりと支えてまいります。皆様のお役に立てるよう精一杯努めたいと思っておりますので、ご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます。

統括診療部長

宮成 信友



この度、統括診療部長を拝命いたしました宮成です。私は、昭和63年に熊本大学医学部を卒業し医師となりましたので、今までの平成の時代が概ねこれまでの医師の経歴期間となります。平成20年4月に熊本大学消化器外科より熊本医療センターに異動となり、外科診療を主体に行っていました。平成が終わり新たな令和の時代に、日高先生、橋本先生が副院長になられ、臨床研究部長には富田先生が就任し、高橋院長の下、新しい体制がスタートいたしました。私は、統括診療部長に任命され病院管理職の一員になったことに責任の重さを痛感しております。病院目標に掲げている「良質で安全な医療の提供」を院内の各部署と連携し実践していきたいと思っております。さらに、働き方改革、医療業務改善の為にも、医師事務作業補助業務の充実を図ると共にこれからは院内の各部署と連携をとりながら病院全体をまとめていくことに努力していきたいと思っております。また、皆様方との医療連携が円滑に行えるよう精進していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



臨床研究部長

富田 正郎



4月より臨床研究部長を拜命致しました富田正郎と申します。『臨床研究部』は国立病院機構病院に独特なもので、当院では1993年10月に創設され、河野文夫前院長、芳賀克夫現天草中央総合病院院長、日高道弘現副院長に次ぐ4代目となります。臨床診療部には治験センターと5つの研究室があり、情報調査研究室長を西川武志先生、技術開発研究室長を岡本実先生、予防医学研究室長を境健爾先生、病理研究室長を村山寿彦先生、特殊疾病研究室長を原田正公先生に御担当いただいております。また国際医療協力室長を小野宏先生に御担当いただき国際医療協力にも力を入れています。治験の推進、学会発表・論文執筆の推進、熊本医療センター学会開催、熊本医療センター医学雑誌発行、英文論文作成支援、研究倫理教育等を通して質の高い臨床研究の推進につとめて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



教育研修部長

境 健爾



この度、教育研修部を担当することになりました境 健爾です。現在、教育に関して勉強を始めたところです。

反アパルトヘイトの闘士、27年間の投獄、全民族融和などに象徴されるネルソン・マンデラ氏は、「教育」について次のようにコメントしています。

「教育とは世界を変えるために用いることができる最も強力な武器である。」

医療者として患者と接する上で、医療者が医療者を育てる上で、また、その医療者が仕事をする施設・環境を整備する上で、教育はとても重要ということであり、教育研修部の活動はとても重要ということ です。

現在、全スタッフに対して「個の教育」、「医療クオリティマネジメント」、「コミュニケーション推進」、「医療安全管理」の観点で教育体制の点検を開始しました。研修医、専攻医、新人看護師の教育体制など活発に活動しているものも、まだ取り組まれてない教育体制に関しても、病院全体として統合された体制に整備していく予定です。



診療部長

村山 寿彦



平成31年4月1日より病理診断科と臨床検査科を担当いたします病理診断科の村山と申します。平成9年7月に宮崎医大第二病理学教室から当院に着任以来21年が過ぎ、その間に病理診断のデジタル化、当院の病理学会登録病院から認定病院への昇格、免疫組織化学的検索の精度向上、病理診断システム、ヴァーチャルスライドシステム、液状化検体細胞診の導入などを行い、組織診断、細胞診断件数はそれぞれ平成10年度の3526件、4426件から平成30年度の6007件、6600件と飛躍的に増加し、診断精度も向上いたしました。おかげさまで昨年4月より久留米大学から病理診断科へ武藤礼治先生が常勤病理医として着任され常勤医二人体制となっています。私は病理専門医ですが、臨床検査専門医でもあり、今後は臨床検査科を含めたゲノム医療への対応を進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



診療部長

藤本 和輝



4月1日付けで診療部長を拜命しました循環器内科の藤本です。私は1998年10月1日に当院に赴任しました。当時、専用カテーテル検査室がなく、カテーテル治療：年間30例、急性心筋梗塞：年間11例でしたが、昨年度、カテーテル治療：年間316例、急性心筋梗塞：年間196例になりました。この間、専用カテーテル検査室ができましたが、スタッフの増員がない状況で行って来ました。当初、紹介もあまりありませんでしたが、紹介された患者さんを、必ず紹介元に返すことにより、徐々に紹介が増えてきました。これは、断らない医療を実践、継続した結果です。今後もこの診療体制を継続してまいります。

医師の働き方等、各診療科、病院全体でさまざまな問題を抱えていますが、今までの経験を活かし、少しでも改善できるよう努力してまいります。

今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。



地域医療連携室室長
菊川 浩明



平成31年4月1日付けで地域医療連携室室長を拝命しました泌尿器科部長の菊川でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

熊本医療センターでは、「1年365日24時間、断らない医療」をスローガンに病院全体で取り組んでいます。その実現・継続に必要なことは、前方・後方支援を含む医療連携であり、その役割の中心を担うのが地域医療連携室でございます。各医療機関の先生方には患者様のご紹介や当院での治療が一段落しました患者様の受け入れ・転院等で大変お世話になっており、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

地域医療連携室は医師2名、専任看護師5名、医療社会事業専門職6名、事務職5名の計18名から構成されており、それぞれの専門知識を活用しながら日々活動しています。我々連携室スタッフは、ともに協力しながら熊本医療センター、ひいては熊本県全体の医療連携に貢献できるように尽力する所存でございます。どうぞ宜しくお願い致します。



管理課長
出良 和之



4月1日付で九州がんセンターから配置換えで参りました管理課長の出良と申します。熊本県での勤務は8年ぶりとなりますが当院の勤務は初めてで、期待と不安を感じております。さて、当院のビジョンは、「24時間365日断らない救急医療」を掲げており、地域医療に重点を置いていると伺っております。そのビジョンを実践する職員の活気にあふれた姿や年間の救急車搬送が9,000件もあるという当院のスケールの大きさにただただ驚いているところです。

微力ではありますが、このビジョンに向けてお役に立てるように頑張りたいと思いますのでよろしく願いいたします。また、不慣れな点も多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思っております。何とぞご指導の程お願いいたします。



地域医療連携室副室長
富高 悦司



平成31年4月1日付で地域医療連携室副室長を拝命いたしました放射線治療科部長 富高と申します。

医療連携なくして現代の地域医療は成り立ちません。今まで一医療人として常に感じ理解はしていたつもりですが、いざ連携室の一員となってみると現在抱えている問題点や今後へ向けての展望など、具体的にばつと浮かんできません。まずは地域の先生方やスタッフの皆様のご意見を一つ一つ大切に、少しでも地域の医療機関および患者様のお役に立てることはないか、菊川室長はじめ連携室スタッフの指導を仰ぎながら考え、行動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



副看護部長
坂元 安恵



4月1日付けで鹿児島医療センターから配置換えで参りました坂元と申します。どうぞよろしくお願い致します。

熊本は初めてですが、城下町の石畳みを歩きながら熊本城の満開の桜に元気をもらっております。年間約9000台の救急車の受入れ、断らない救急医療の実績に圧倒され更に緊張感が高まっております。そしてその中で、役割を担う職員の一人として仕事ができることをうれしく感じております。一日も早く急性期病院の役割を理解し、効率的な病床管理や地域医療連携の在り方などを学びたいと思っております。また、看護職員がやりがいを持ち質の高い看護が提供できるように看護師の支援へ向けて努力して参りたいと思っております。まだ至らない点もあるかと思いますが今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



診療放射線技師長
有迫 哲朗



4月1日付で福岡東医療センターから配置換えで参りました有迫と申します。9年ぶりの熊本医療センター勤務となりますが、当時からすると立派なヘリポートができるなど救急医療体制が益々充実してきており、その一翼を担う当院の放射線業務に携われることを嬉しく思います。また、放射線科には画像診断装置だけでなく、当院の柱の一つとして地域がん診療連携拠点病院の役割である放射線治療装置もあります。これらの放射線機器を使用して質の高い医療が提供できる体制を整えていきたいと思っております。また、ソフト面として患者さまをはじめ、職員や診療に携わるすべての方に対して今まで以上に礼節をもった対応ができるよう努めてまいります。

まだ不慣れな点が多くご迷惑をおかけしておりますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

VOICE

登録医の声

国立病院機構
菊池病院

院長 渡邊 健次郎



◆貴院のアピールをお願いします

当院は昭和 52 年 4 月に現在地に新築されました。熊本市街から約 20 km の合志原台地にあり、自然に囲まれた落ち着く治療環境にあります。当院の特徴は、脳の器質性疾患の医療を主とするという要請に沿って、一般精神医療の他、老年期精神障害、児童・思春期の精神障害、動く重症心身障害児（者）の療育に取り組んでおります。平成 19 年からは医療観察法病棟も開設されており総病床数は 247 床でスタッフも充実しております。令和 2 年 1 月には新病棟も竣工する予定ですので国が担うべき政策医療の中で、「精神及び重症心身障害」の専門医療施設としての役割を果たすべく取り組んで参ります。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

私の趣味は、日曜大工です。おすすめスポットは、阿蘇神社門前町商店街です。阿蘇外輪山の恵みを受けて、いたるところにある湧水を「水基」と呼ばれる水汲み場で飲むことができます、商店街にはこの水を利用して作るおいしい料理店やカフェ、お菓子工房などがあります。また、雰囲気のある文具店や時計店などもあり飽きることがありません。阿蘇神社を参拝された後、ぜひ訪ねてみてください。

◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

当院から、毎年約 50 名の身体合併症を有する精神科の患者様を貴院に紹介させていただいており、大変感謝いたしております。一方、貴院から精神科での治療目的でご紹介をいただいている患者様は年に数人程度です。今後は、貴院からより多くの患者様をご紹介いただけるように取り組んで参りたいと思います。今後とも当院との連携をよろしく願いいたします。

【診療科目】

精神科 神経科 精神科リハビリテーション

【受診方法】（初診の方）

当院を初めて受診される方は、**必ず事前に地域医療連携室までお電話下さい**。担当者が電話にて、患者様やご家族のお困りごとをお伺いします。その後患者様のご都合を聞きながら受診の日時を決めさせていただきます。

予約をされずに、来院された場合には、担当者がお話を伺い日を改めてお越しいただくこととなります。当日受診可能な場合も待ち時間が長くなることがあります。

【住所】

〒861-1116 合志市福原 208

【TEL】

096 - 248 - 2111

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、**関係医療機関の皆様から頂くお電話のみ**をお受け致します。患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

地域医療連携室室長 菊川 浩明

地域医療連携室直通電話 **096 - 353 - 6693**

月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00



3月22日

臨床研修修了式・祝賀会が行われました



当院平成 29 年度医科総合プログラム 14 名、プライマリケアプログラム 3 名、平成 30 年度歯科プログラム 1 名の臨床研修修了式が当院研修センターホールで行われ、夜は KKR ホテル熊本にて、1 年次、2 年次研修医や指導医による祝賀会が行われました。立派に巣立つ研修医達を見て感無量です。

前教育研修部長
富田 正郎

Masao Tomita



4月3日

2019 年度の入学式を挙行いたしました

期待に胸を膨らませ、看護を志す 40 名の学生が入学しました。同じ夢を抱く仲間同士、切磋琢磨しながら有意義な 3 年間となるよう、教職員一同学生支援に努めてまいります。



保健医療福祉にかかわる地域の皆さま、ボランティア活動とあわせて学生と関わってくださる地域の皆さま、どうぞ 73 期生 40 名をよろしく願います。

本校に入学することができ、私たち 73 期生は今、喜びや学業への不安と期待でいっぱいです。入学するまでの努力を思い出し、本校の看護学生となった誇りを忘れずに、学校生活、学業ともに日々一歩一歩前進していきたいと心に誓いました。

ナイチンゲールの精神にならい、先輩方から様々なことを吸収し、後輩へとつないでいけるよう精進いたします。

73 期生 代表 小橋 沙代子

附属看護学校教員
高木 佳寿美

Kasumi Takaki



4月1日

今年度も臨床研修医を迎えました

2019 年 4 月、22 名の新研修医を迎えました。当院で 2 年間修業を積む「総合臨床研修プログラム」が 16 名、2 年次に荒尾市民病院・公立玉名中央病院・山鹿市民医療センターを回る「プライマリケア臨床研修プログラム」が 2 名、「熊本大学病院群プログラム」2 名、それに歯科臨床研修医 2 名です。2 年次の研修医 18 名が率先して指導役に回り、多くのベテラン研修指導医により臨床研修が始まりました。医局は現在、若い力が漲っています。

当院で研修を開始した研修医が、患者の声を聴き、体に触れ、患者の気持ちを把握し、質の高い医療が提供できる医師に育ちますよう、院内スタッフ全員で応援したいと思います。皆様におかれましても、ご協力、ご助言を何卒よろしくお願い申し上げます。



教育研修部長
境 健爾

Kenji Sakai



4月5~6日

「新任職員宿泊研修会」が行われました



平成 31 年 4 月 5 日（金）～ 6 日（土）に、医師・レジデント 24 名と研修医 22 名が参加して、平成 31 年度新任職員宿泊研修会が阿蘇熊本空港ホテル・エミナスで開催されました。

1 日目は、当院の高橋 毅院長による「当院における救急医療体制の構築の歴史」と題しての講演が行われ、当院が救急病院として認知されるまでのご苦労、最下位からの救急、落ち穂拾いの救急、弱者の為の救急、正義の救急に徹してこられたことで現在では全国でも数少ない救急病院に至ったことを学ぶことができました。その後の意見交換会では、参加者相互の親睦が深められました。

2 日目は、JAL アカデミーの神田 京子先生による「患者接遇マナー研修」が実践形式で行われました。午後からは、当院の原田正公救命救急センター長より「救急外来診療の実際」と題して講演が行われました。大変有意義な研修で多くの事を学ばせて頂きました。

庶務班長
有馬 義弘

Yoshihiro Arima



最近のトピックス

令和時代の慢性腎臓病 (CKD) はどこへ向かうのか? (FROM-J 試験結果より)

臨床研究部長

とみた まさお
富田 正郎



FROM-Jという日本の大規模臨床研究をご存知でしょうか?かかりつけ医によりCKDガイドに沿って治療いただくA群と、腎臓専門医への受診勧奨や定期栄養指導などの積極的介入強化のB群の前向き比較試験でした。患者年齢は40-74歳、各群約1000名ずつ。CKDステージは1, 2, 4, 5とステージ3は尿蛋白陽性の症例を対象。2008年10月から3年半フォロー。結果、腎機能低下速度はB群の方が遅い傾向にあるも有意差なし。平均値で推算すると(eGFR7ml/min/1.73m²で透析導入と仮定)、A群は20.3年後に透析導入、B群は21.1年に導入と、透析導入遅延効果は20年中の1年にも満たない結果でした。ステージ3だけはB群が有意差をもって良かったが、ステージ4や特に5については、有意差はないが逆にB群の方が悪い傾向。副次項目で透析導入例の頻度は両群間で同じ。

と、EBM的には「腎臓専門医に紹介しても無駄で、かかりつけ医の治療で充分である」との結果。少なくともディオ**事件のような改竄のない正直な結果だったと思います(私見)。私は「有効な治療のあるCKDとそうでないCKD、生活習慣の改善効果が少ないCKDがあり、後者が多いため有意差が出なかった」と解釈します。疾患にheterogeneityがあるため例数だけ多く集めて一律に扱えば効果は薄まります。専門医が介入したから死亡せず存命出来たため、透析導入数としては増えることも実際は起こっています。

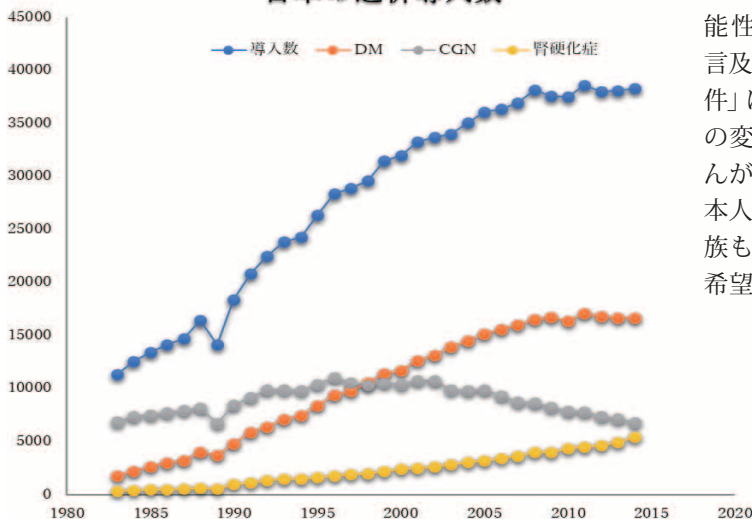
日本透析学会の全国集計を見ると慢性糸球体腎炎(CGN)からの透析導入は明らかに減少しています。

糖尿病(DM)からの透析導入もやや減り始めています。治療のある疾患については積極的介入が有効です。しかし高齢者の腎硬化症は右肩上がりです(グラフ)。ヒトが他の疾患や事故等で死亡せず長寿になればなるほど(生理的な)腎臓の老化、腎臓の老衰(=腎硬化症)は増えます。老化の若返りは難しく、治療も難しい。たとえば低たんぱく食は栄養障害・サルコペニアをきたし逆効果になりかねないし、ARBでなくとも降圧は腎虚血を招く諸刃の刃です。神技の匙加減が必要?

高齢者では減塩ひとつをとっても個々の症例でベストな対応は異なり、一律に出来るとするならば、30年後の透析を減らすため国を挙げて「腎硬化症症例の子供や孫は若いうちから減塩に取り組む」くらいしかないのかも・・・

『エビデンスに基づくCKDガイドライン2008』の高齢者CKDの前文には「・・・高齢者CKDに対する保存期治療の積極的実施によって、透析導入することなく穏やかな終末期を迎えるという選択肢が提示できる可能性がある。」とあり、「透析非導入」という選択肢に言及しておりますが、「透析非導入や中止」は今まさに「事件」になっていて、議論を呼んでいます。国民の「死生観」の変化や裁判所の判決が今後のカギとなるかもしれませんが「もめごと」を回避するためには「透析非導入」は本人と主治医だけで決して判断せず、本人のみならず家族も含めて専門医とも十分検討しておくべきで、またご希望が変わったらそれに対応することが必要です。

日本の透析導入数



(日本透析医学会の集計より改変して引用)



尿路変更術後患者の退院後のストーマ管理の現状と問題

病棟看護師 本多恭子 守永富士美 西村有佳 池田としえ

【目的】

ストーマ造設後の患者が退院後、どのような悩みや不安を抱いているのかを患者会を通じて知り、問題点を明確にします。

【研究方法】

対象: A 病院で尿路変更術を受けた退院後の患者様を対象に年 2 回開催される患者会(ひまわり会)の参加者約 30 名。

方法: 参加者の中でグループインタビューに同意が得られた対象 5 ~ 6 名を 1 グループとし、日常生活の中で必要な行動である「入浴」「睡眠」「趣味・運動」の 3 項目をテーマに絞り、疑問点、不安点、困った時の解決方法を出し、その内容を逐語録にまとめ、内容の分析を行いました。

研究期間: 平成 29 年 4 月~平成 30 年 3 月

データ分析方法: 逐語録をもとにカテゴリー化し分析を行いました。

倫理的配慮: 院内倫理委員会において研究に関する倫理審査を受け承認を得ました。

【結果】

アンケート回収率は 86%でした。

患者様の属性: 性別(男性:20 名 女性:6 名) 平均年齢 75 歳で ストーマ経験年数(1 年未満:3 名 1 ~ 5 年以内:6 名 5 年以上:17 名) 日常生活の状況(入浴、睡眠、趣味・運動)の 3 つの項目を逐語録により分析した結果、228 コードを抽出しました。それを、17 サブカテゴリー、さらに 9 つのカテゴリーに分類しました。

《睡眠について》

大項目	小項目	内容
不安	寝返り時に引っ張ることで装具が外れる	・寝返りの時にカテーテルを下敷きにして閉塞していないか。 ・退院して数年は装具が外れそうで眠れなかった。
	失敗体験	・寝返りや、ウロバックの尿破棄口の閉め忘れや緩いことによって尿漏れした。
	体験から得た睡眠環境調整	・ベッドの横に棚を置いてウロバックを設置 ・布団を 2 枚敷いて高さを出す。 ・ウロバックをビニール袋やケース、洗面器に入れている。
体動制限	カテーテルによる寝返りのしにくさ	・ウロバックを接続している方と逆(左側臥位)に寝返る時は気になる。 ・寝返りによってカテーテルが捻じれたり、引っ張ることがあり睡眠不足だった。
	体験から得た寝返りをしやすくする行動	・ウロバックを足下近くに置くと寝返りしやすい。 ・股の下のカテーテルを通す。
	カテーテルの煩わしさを避ける行動	・ウロバックは煩わしくて使わない、1 回起床して尿破棄する。 ・冬は途中覚醒するのは大変だからウロバックに接続する。

《入浴について》

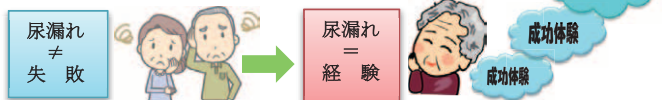
大項目	小項目	内容
不安	濡れることで装具が外れることへの不安	・入浴中に漏れた経験が多く、入浴で漏れるリスクが高くなるのではないかと。 ・退院後一度入浴したが、「やはりパウチが外れたりしないか」 ・入浴をすると装具漏れが心配なので、入院中と同じように洗面台で交換する。 ・造設前は入浴をしていたが尿漏れへの不安からシャワー浴や清拭で済ませる。
	経験から得た装具尿漏れに対する行動	・ビニール袋、防水テープ、キッチンの吸水テープなどを使用する。 ・シャワー浴をするときに腹巻をして濡れないように防止している。うちわで乾かす。 ・タオルで装具を押さえて浴槽に浸かる。 ・入浴後、パウチが濡れてもタオルやハンカチで乾くまで当てる。
ストーマ管理	体験からの気付き	・パウチが浮いて気になる。 ・入浴時のトラブルがないので浴槽に浸かっている。
環境	温度の調整	・お湯の温度はぬるめに設定する。
公共施設	温泉	・温泉は家族湯しか利用しない。

《趣味・運動について》

大項目	小項目	内容
現状への満足感	違和感のない活動	・運動に夢中で尿破棄することを忘れることがある。 ・パウチをつけていることを忘れることがある。
トラブルの回避方法	体験による気付き	・農作業でしゃがんだり、重い物を持つと腹圧や、ゆるむことで漏れやすくなる。 ・汗をかくと漏れやすい。・趣味や運動で汗をかくと中 3 日ももたない。
	トラブルへの備え 専用物品の活用	・装具が剥がれた時のために常に装具や交換セットを持ち歩いている。 ・サッカー、テニスをするときはベルトやサスペンダーを使用する。
活動の妨げ	未経験がもたらす影響	・発汗しやすいため漏れそう。 ・運動すると装具が外れそう。 ・旅行先のベッドに落差があるベッドか気になる。家族にも漏れた時の心配をかけるから旅行は避けている。

【考察】

入院中の「尿漏れ」を「失敗」と思わせない「経験」とした上で成功体験を重ね、自己効力感を高めることが求められます。



【結論】

- すべての項目において、「尿漏れ」に対する不安は大きいと思います。
- 入浴では、入院中に入浴体験が少ないことが、退院後、入浴時の装具漏れに不安を抱いていました。
- 睡眠では、ウロバックカテーテルによる体動制限が睡眠の質の低下に繋がっていました。
- 趣味・運動では、自己効力感の低下から失敗を恐れて行動に移せないことがありました。



研修のご案内

第199回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕
〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶令和元年5月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「ミトコンドリア糖尿病の特徴と診断」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 吉永智昭
2. 「動脈硬化性 心・血管疾患（ASCVD）抑制と総合的予後改善への脂質治療、糖尿病治療を目指して」
医法）社団陣内会 陣内病院 循環器内科部長 杉山正悟 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501（代表）内線5441

第21回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座2.0単位認定〕

日時▶令和元年5月18日(土)15:00~17:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：東熊本第二病院 院長 馬場太果志 先生
 演題：「肺高血圧症の診断と治療に関する最近の話題」
 熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学講座助教/
 熊本大学病院循環器内科診療講師 山本英一郎 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第243回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶令和元年5月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診察で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
 「第1症例 神経症候の増悪した脳幹梗塞の1例」
 国立病院機構熊本医療センター脳神経内科 長倉拓究
 「第2症例 消化器内科からの1例」
 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 岡本祐毅
2. ミニレクチャー「ポリファーマシーについて」
 国立病院機構熊本医療センター総合診療科 吉村文孝

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合診療科部長 辻 隆宏 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第167回 救急症例検討会（無料）

日時▶令和元年5月22日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「頭頸部疾患」

国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科部長 上村尚樹
 国立病院機構熊本医療センター眼科部長 榮木大輔
 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健

症例呈示とミニレクチャーを用意しています。

全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第134回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶令和元年5月29日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「血液培養でMRSAが検出され難治性腸腰筋膿瘍の経過を辿った80代男性」

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川武志
 病理担当) 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長 村山寿彦
 国立病院機構熊本医療センター病理診断科 武藤礼治

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

2019
5月

研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室
1日(水)		
2日(木)		
3日(金)		
4日(土)		
5日(日)		
6日(月)		
7日(火)		
8日(水)		
9日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
10日(金)		
11日(土)		
12日(日)		
13日(月)		
14日(火)	17:30~18:30 第116回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
15日(水)	18:30~20:00 第101回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 橋本伸朗 熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学講座教授 宮本健史 先生	
16日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:30 第74回 市民公開講座 「心筋梗塞からカラダを守ろう!」 国立病院機構熊本医療センター診療部長 藤本和輝	19:00~20:45 第199回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日(金)		
18日(土)	15:00~17:00 第21回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「肺高血圧症の診断と治療に関する最近の話題」 [日本医師会生涯教育講座2.0単位認定] 座長 東熊本第二病院 院長 馬場太果志 先生 熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学講座助教/ 熊本大学病院循環器内科診療講師 山本英一郎 先生	
19日(日)	10:00~12:45 第289回 熊本県滅菌消毒法講座 「洗浄の基本的知識を学ぶ」	
20日(月)		19:00~20:30 第243回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
21日(火)		
22日(水)	18:30~20:00 第167回 救急症例検討会 「頭頸部疾患」	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
23日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会(細胞診月例会・症例検討会)	
24日(金)	19:00~21:00 摂食嚥下特別講演会 「摂食嚥下リハビリテーション これまでの30年とこれから ~多職種協働への期待~」 日本摂食嚥下リハビリテーション学会理事/ 埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科 言語聴覚士 清水充子 先生	
25日(土)	13:00~15:30 第152回 公開看護セミナー 「円滑なコミュニケーションのための信頼関係の築き方 ~その実践スキル~」 コミュニケーションオフィス taz 石本田鶴子 先生	
26日(日)	8:30~13:15 第24回 熊本PEECコース	
27日(月)		
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	
29日(水)	19:00~20:30 第134回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「血液培養でMRSAが検出され難治性腸腰筋膿瘍の経過を辿った80代男性」	
30日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー	
31日(金)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<https://kumamoto.hosp.go.jp>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号

TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519
連携室直通TEL(096)353-6693
連携室直通FAX(096)323-7601